

第2章 地域福祉の現状と課題

1. 各種調査活動の概要と考察された課題

「対馬市地域福祉活動計画」の策定にあたり、住民参加・協働により地域特性や社会資源・福祉サービスの現状把握、地域の福祉課題の整理を行うため、支所ワーキング部会、全体ワーキング部会において作業を実施しました。

現状把握における調査内容・調査方法については、各支所ワーキング部会で決定し、課題整理作業を行いました。

(各種調査活動の概要)

(1) 市民意識調査のためのアンケート調査

「であい・ふれあい・ささえあい」のまちづくりに向けた市民の意識を把握することを目的に、アンケート調査を実施しました。

一般市民アンケート（中学生・高校生・18歳以上の市民・一人暮らし高齢者・介護サービス利用者に分けて実施）

2,241部回収

市民団体アンケート（ボランティアグループ・NPO・商工会青年部に分けて実施）

27部回収

関係機関・施設アンケート（福祉施設・法人会員等に分けて実施）

48部回収

美津島町は、平成18年度モデル事業にて実施。

(2) 住民懇談会

地域住民の生の声をお聞きし、身近な地域における生活課題等を把握することを目的に、住民懇談会を実施しました。

開催回数 6回（美津島町 3回・上対馬町 3回）

参加人数 180名（美津島町 124名・上対馬町 56名）

美津島町は、平成18年度モデル事業にて実施。

(3) 支所ワーキング部会

開催回数 21回（厳原町 3回・美津島町 1回・豊玉町 3回

峰町 4回・上県町 7回・上対馬町 3回）

(4) 当事者・福祉関係者ヒアリング調査

全体ワーキング部会の中で、「福祉活動の中から見えてきた地域の課題」をテーマに当事者・福祉関係者から報告をしていただくことで、ヒアリング調査を実施しました。

報告者

対馬市地域包括支援センター	主任	阿比留 光 代氏
介護老人保健施設「結石山荘」	相談員	一 宮 薫 子氏
美津島町地域子育て支援センター	相談員	小 宮 敬 子氏
知的障害者更生施設「対馬学園」	施設長	阿比留 美智代氏
地域活動所「さわやか」	利用者 施設長	原 田 武 彦氏 佐 伯 繁 氏
社会就労センター「杉の木ホーム」	利用者 職 員	黒 岩 金 太氏 井 貴 詞氏
対馬市福祉事務所 福祉課	副参事兼係長	木 寺 俊 文氏

テーマ：「対馬市地域福祉計画」について



(課題整理)

情報収集の中から明らかになった生活課題から、21の項目について「評価できる事項」と「課題となっている事項」に分けて整理を行いました。

(1) 保健・医療・福祉サービス

保健・健康づくりサービス

評価できる事項	健康診断、健康教育、食生活改善などの事業が展開されている
課題となっている事項	健康づくりイベントが少ない、少なくなった 精神障害者への対応が不十分 保健師への相談がしにくい、訪問指導などがなくなった 40代～50代で健康診断をあまり受けない 健康づくりに対する住民の意識が不十分ではないか

医療サービス

評価できる事項	診療所が近くにあると安心できる AEDの設置が進んだ
課題となっている事項	緊急時の対応が不安 小児科、整形外科などの専門医が少ない、遠い 医療機関が集中している 後期高齢者医療制度に対する説明不足と制度的不備 保健師・看護師の訪問活動が欲しい 医療費、保険料が生活を圧迫する

介護サービス

評価できる事項	施設サービスは充実している 保健・医療・福祉の連携がとれている 居宅介護支援事業所の訪問活動で生活支援が充実している
課題となっている事項	介護保険サービスに関する認知不足、説明不足 介護サービスを経済的理由で利用を控える状況がある

福祉サービス

評価できる事項	サービス施設、センター等の施設が充実している 地域福祉のありようが協議されている
課題となっている事項	生活保護世帯の増加と支援のあり方 障害者についての福祉教育が必要 保育所対策の充実 独居高齢者の孤立化が進んでいる、生活支援が必要 食事サービス、送迎サービスの充実

(2) 生活環境

防災・防犯

評価できる事項	犯罪が少ない 犯罪情報が得やすい 地域の消防団などの活動が充実
課題となっている事項	犯罪に対する危機意識が少ない 災害時の避難場所や安否確認などの対応が不安 災害時に対応できるボランティアがいるとよい 災害時のニーズの把握が不十分 消防団員の減少

交通

評価できる事項	道路整備が進んでいる 近所での乗り合わせ等の助け合いができています
課題となっている事項	道路が不整備、通学路などに危険がある 交通機関が少ない、交通費が高い 高齢者ドライバーの安全問題がある バス路線のない部落等への対策 高齢者、障害者の通院などの移動手段が充分ではない

バリアフリー

評価できる事項	子どもたちの関心が高くなっている
課題となっている事項	道路などが配慮されていない 心のバリアフリーを育てることが必要 公共施設における充実を望む

生活関連施設の状況

評価できる事項	公園など充実している 公民館、集会所を活用する
課題となっている事項	イベントができる会場や遊び場がない 商店が少なくなっている

公共施設などの状況

評価できる事項	地区の行事などで公民館などをよく利用する
課題となっている事項	公民館などでも修理が必要なところがある 放送が聞き難い 利用料の免除の充実 設備の充実 文化施設、スポーツ施設が不十分

(3) 経済環境

雇用対策

評価できる事項	
課題となっている事項	若い人の働く場を確保 障害者の就労支援の充実 島にあった企業誘致の充実

産業振興

評価できる事項	自然を生かした観光の充実
課題となっている事項	公共事業の減少、地場産業の低迷

(4) 生活問題の相談支援体制

心配ごと・生活課題の相談

評価できる事項	生活はまあまあ満足 相談窓口がある 家族、親族などで相談にのっている 近所や民生委員などに気軽に相談できる
課題となっている事項	秘守義務の厳守が難しい 心配ごと相談の利用が少ない 相談窓口が理解されていない、一カ所にして欲しい、遠い 気軽に相談できる仕組みが必要

消費者問題・権利擁護

評価できる事項	権利擁護事業によって支生活の安定に繋がっている 悪徳商法の情報などが広がりやすい
課題となっている事項	物価が高い 個人情報の管理 消費者保護の制度の周知が不足している

福祉情報等の広報活動

評価できる事項	市広報、社協だよりをつかって情報を得ている CATV を活用した情報提供が推進された 行政からの連絡放送が流れるので便利である
課題となっている事項	広報の手法を検討する必要がある 元気なうちは関心がない人が多い 内容が専門的で理解できない 回覧板でまわってくる情報を遅すぎることもある

(5) 住民の地域交流・活動

近所づきあい・交流

評価できる事項	住み続けたい、生活にまあまあ満足 地域の高齢者、障害者等の支援など役に立ちたい 慶弔時などは近所での助け合いができています 町内会活動などで近所づきあいができています
課題となっている事項	他人任せの人的交流の希薄さ 多世代交流事業が必要 団塊の世代の人材バンクを活かす取り組みが必要 近所づきあい、地域内での交流が希薄化している 家庭以外で子どもと高齢者の交流が機会が少なくなっている 一人暮らし高齢者の訪問、話し相手の活動が欲しい

地域活動・行事など

評価できる事項	地域の行事によく参加している 地域と学校、老人会などとの交流が盛んである 伝統的行事が継承されている 地域で子どもを見守る活動が広がっている 地域をよくしようとする意識が高い
課題となっている事項	活動に参加する人が限られている 活動の拠点・資金などが充分ではない ボランティア活動の希望者への支援が必要 情報が少ない、時間がないなどで活動に参加できない 参加する仲間を増やす手だてを支援して欲しい 伝統的行事が減少、衰退している 青年団、婦人会などの組織や活動が低調である 高齢化、過疎化によって、地区の機能が危ういところもある

スポーツ・文化活動など

評価できる事項	新しい活動や団体が生まれている 子どもへの伝統行事や昔の遊びなどを伝承活動が行われている スポーツへの関心が高く、交流が行われている
課題となっている事項	サークルが少ない 障害者が参加できる機会がない 文化施設が有効活用されていない 人口減少で活動が難しくなっている 韓国とのスポーツ、文化交流を盛んにしたい

(6) 社会福祉協議会活動

社会福祉協議会の認知

評価できる事項	名称は多くの人知っている 社協だよりでの広報活動によって周知されている 社協への活動に期待している
課題となっている事項	活動内容が知られていない 会員制度の認知が低い 広報活動が必要 市役所との関係が理解されていない 役所の出先 社協の存在意義や役割が理解されていない パンフレットなどでわかりやすい説明を

事業の認知や住民の参加状況

評価できる事項	イベント、事業が地域にとけ込んだものとなっている
課題となっている事項	事業時の積極的広報活動が必要 地区によって理解度が違う 時代にあったタイムリーな企画が必要 一般住民が気軽に参加できる事業やイベントが欲しい 地域に開かれた組織になってほしい

ボランティア活動の展開

評価できる事項	多くの人ボランティア活動に参加したいと思っている 高齢者も参加できる 地域でさまざまなボランティア活動がある 自分の持っている技術や知識を活かして役に立ちたい
課題となっている事項	活動場所、活動資金が欲しい ボランティア活動支援体制の整備が必要 ボランティア活動の必要性を広報する必要 ボランティアの中で、リーダーやコーディネートできる人が少ない 若年層への参加促進 ボランティア情報の広報方法を検討すべき

(7) その他

②① その他

評価できる事項	
課題となっている事項	社協の人員不足 健康な高齢者を大切に 行政からの文書をわかりやすく周知する



(課題のまとめ)

これまでの取り組みから明らかになったこと、ワーキング部会等で議論されていたことより、以下のとおり重点課題をまとめました。

1．住み慣れた地域でお互いの個性を認め合い、自分らしく生き生きと暮らせる地域社会が必要です。

住み慣れたまちで自分らしく生活するためには、問題が発生した際、自己努力だけでなく、時には必要なサービスを利用することが必要になります。そのような中、多種多様な福祉ニーズに対応するため、公的制度に基づく福祉サービスが実施されたり、また、住民参加による公的制度外のサービスなどが実施されたりしています。しかし、問題を家族や個人で抱え込んでいることもあり、発見されぬまま潜在化しているケースもあります。また、現状では困ったことがあっても、多くの人がサービスに関する情報を十分に得られていないと感じているなどの課題が寄せられています。

今後は、住民に身近なところで情報提供や相談ができる場づくりを進めるとともに、住民が発見した問題が専門機関・団体につながるための仕組みづくりが必要です。

重点的課題

- サービスの利用と自立生活のあり方についての理解を深める啓発活動を充実する
- さまざまな生活課題に対する市民に対する相談・支援体制を充実する
- さまざまな障害者の生活状況を市民が広く理解できるように、ふれあいの機会を拡充する
- 生きがいを持って地域活動に関わるボランティア等の人材育成を充実する

2．豊かな自然や歴史・文化を大切に、いくつになっても安心して住み続けられる地域社会が必要です。

子どもからお年寄りまですべての年代が、障がいの有無にかかわらず、住み慣れた町で自分らしく安心した生活をおくる上で、ライフステージの各段階において生活課題に直面した際、課題解決につながる情報提供や気軽に相談できる場が必要になります。

また、サービスとサービスの間隙を埋めるものが必要な場合があります。

今後は、専門機関・団体や地域住民が連携・協働によるニーズ把握の仕組みづくりを進めるとともに、新たなニーズに対応するためのサービスを開発、サービス利用における権利擁護の推進が求められています。

重点的課題

- 市民の生活関連諸制度の理解を深めるための広報活動を充実する
- すべての世代で、健康づくりへの市民の意識を高める
- 児童から高齢者まで、安心して生活を営むことのできるサービス供給体制づくりを促進する
- 保健・医療・福祉に関わる社会資源を地域の中での連携を促進する

3. 世代を越えて、町を越えて、国を越えてさまざまな人々と交流し、あらゆる社会資源との連携を図り、元気のある地域社会が必要です。

住民の地域交流・活動について、町内会活動や慶弔時など近所づきあいができている反面、多世代交流や青年団・婦人会などの組織の活動が衰退している。高齢化や過疎化により、地区の機能が危ういところもある。

今後は、地域住民同士が住んでいる地域に目を向け、主体的に地域福祉活動に取り組む機会をつくるとともに、地域で活動する様々な団体がそれぞれの持ち味を活かしつつ、地域福祉課題を協働して解決するためのネットワークの構築が必要です。

重点的課題

地区単位から学校区単位での市民の交流と協働活動を促進する

学校と地域組織の連携と交流、協働活動を深めて、市民による多世代交流の機会を拡充する

対馬と関わりの深い外国の人々との交流と学びによって、歴史・文化の相互理解を促進する

生活関連諸機関が連携するための人と組織のネットワーク形成をすすめ、協働活動を促進する

4. いろいろな課題を、みんなとともに考えて、解決していく行動力を高めて、みんなでつくる地域社会が必要です。

住民の福祉ニーズが多様化する中で、行政や専門機関・団体が実施する福祉サービスの充実とともに、住民主体の地域福祉活動への期待は大きくなっています。

対馬市においても、ボランティア活動に参加したいと思っている方が多く、自分の持っている資格や知識を活かして役に立ちたいと思っている反面、活動場所、活動資金、ボランティアのリーダーやコーディネートできる人がいない、情報が入りにくいといった指摘がある。

今後は、関係する機関・団体が連携・協働しながら、住民に対して地域福祉活動の参加のきっかけをつくり、必要な人材育成・発掘に努めるとともに、活動の拠点や財源整備などが必要です。

重点的課題

市民が地域ごとの課題を全市的な視点で理解し、共有するための広報活動や情報交換の機会を充実する

地域情報の拠点づくりをすすめ、地域状況に関する情報の収集と多様な発信方法を確立する

地域課題の解決に向けたテーマ毎の公私協働の連絡組織をつくり、課題解決への検討と協働活動を促進する

地域における活動に関わる多くの人材発掘を進めて、活動の展開をはかる

5. 一人ひとりの心に寄り添いながら、ともに生き、育つことのすばらしさを実感できる地域社会を目指します

本市は、歴史的な資源も多く、伝統的行事が継承されている地域がある。また、歴史的にも共生思想の強い島である。アンケート調査結果から、「何らかの形で住みつづけたい」といった方が約8割となっている。しかし、雇用問題等で市民の島外流出が増え、高齢化・過疎化の進んでいる地域が多く、伝統行事をはじめとする地域福祉活動が衰退している地域も見られる。

今後、地域の素晴らしさを再認識し、次世代に伝え、島に対する誇りや愛着心を育てていくことが必要です。

重点的課題

市民に対して、人間の尊厳や生きることの意味を考える機会となる学習・啓発活動の充実をはかる
福祉の思想や実践の歴史を学ぶ機会の充実を図り、共生思想の定着を促進する

芸術、文化、スポーツなどの活動を通じて、人間関係の広がり生きがいづくりの機会を拡充する
対馬の歴史・文化に触れる機会を通じて、郷土を大切する心を醸成する

対馬の良さを市民自身で見つけ、子どもたちへ継承していくための機会を拡充する